

地域中核・特色ある研究大学の振興に係る事業設計委員会 第4回 概要

日時

令和5年3月30日（木）15:00～17:00

場所

文部科学省 15階 科学技術・学術政策局会議室1及びWeb会議

議題

1. 「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」の申請状況等について
2. 第3回事業設計委員会等の主なコメントについて
3. 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」について
4. 今後の予定について
5. その他

主な発言（3. 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」について）

伴走支援等について

- ・ 各大学の提案の個性を伸ばしつつ、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」の事業趣旨を踏まえた取組を進めることは難しい舵取りとなるが、伴走支援を効果的に行うための仕組みや、経費の使い方の自由度等の設計をよく検討する必要がある。
- ・ 個々の大学の取組の個性や成長の度合いに応じて必要な人材や研究資源の配分の割合等が変わってくることから、事業開始当初に決めた公募要領等の内容のみで各大学の取組を縛りすぎないように注意してほしい。
- ・ この国の研究力を底上げし世界と勝負できる形に持つていくためには、国際卓越研究大学及び地域中核特色ある研究大学への支援を通じて大学が大きく変わらねばならない。そのため、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」で支援する大学のレベルをいかに保つか、各大学の研究力の向上戦略や計画等がそのレベルに相応しいものとなっているかの判断が重要となる。各大学にアウトプット・アウトカム指標を考えてもらうものの、伴走支援する文科省やJSPSは、各大学の良さを生かしながら、大学としての取組の広がりや深掘りを共に目指していかないといけない。

審査・評価について

- ・ 日本全体の高度人材と知識基盤社会における大学の在り方に関する議論を背負って、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」の支援が行われるものと認識。JSPS事業推進委員会でも議論の共有が必要。
- ・ 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」は規模感のある施策なので、大学の変革とその状況を見せながら社会を変えていくことを並行して行うことが重要であり、社会にどのように見せていくかも意識して事業を進めていくべき。
- ・ 地域における大学の役割としてどのような大学像が適しているかを議論しながら、日本全

体における大学を通じた社会の在り方を見出していくという意識が必要。

- ・ 各大学の目指す方向性が多様であり、審査にあたって、評価軸等をしっかり検証することが必要。
- ・ 施設整備事業での研究力の向上戦略の審査結果等については、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」の制度設計においても参考とすべき。
- ・ 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」と国際卓越研究大学の審査が並行して行われることになるが、それぞれは両輪なので、国際卓越研究大学の審査状況も踏まえて、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」の初年度の採択大学を検討すべきではないか。

配布資料

1. 「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」の申請状況等について
2. 第3回事業設計委員会等の主なコメントについて
- 3-1. 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」について
- 3-2. 地域中核研究大学等強化促進基金の運用基本方針
- 3-3. 地域中核研究大学等強化促進事業制度骨子
4. 日本学術振興会における検討について